

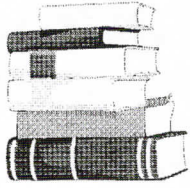


年頭の挨拶／2022年度代議員選挙結果報告／
【重要】学術大会セッションの変更について／
2022年学術大会（東京・早稲田）トピックセッション提案募集

日本地質学会 *News*

Vol.25 No.1 January 2022

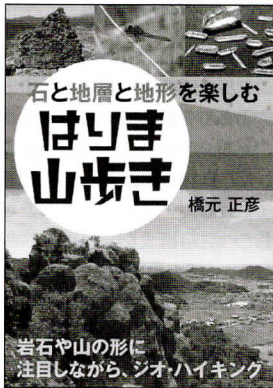




紹介

石と地層と地形を楽しむ はりま山歩き

橋元 正彦 著



神戸新聞総合出版センター，2021年11月
12日 発行，A5判，128頁，ISBN: 978-4-
343-01133-6 C0044，定価1980円（税込）

本書は、一般の人が播磨の山を歩きながら、地質や地形を楽しむための案内書である。播磨とは、兵庫県南西部の通称播州（ばんしゅう）と呼ばれる地域である。播磨の地質は、舞鶴帯、超丹波帯、丹波帯などの付加体、白亜紀後期の珪長質火山岩類および花崗岩類、古第三紀の神戸層群、鮮新世～更新世の大阪層群、段丘堆積物、沖積層などから構成される。この地域のハイキングのガイドブックは多くあるが、地質や地形の観察を中心にしたものは本書が初めてである。

著者の橋元氏は、広島県・兵庫県の中学教師等を長く勤める傍ら、兵庫県内の山々の地質学的情報のWebサイトでの発信にも力を入れてきた。兵庫の山々 山頂の岩石 (<http://www2u.biglobe.ne.jp/~HASSHI/yama.htm>) には詳しい情報が公表されている。本書を書くための調査・執筆期間は2021年3月～8月の6ヶ月間ということである。この様な短期間で書き上げたのは驚きであるが、それが可能となったのは、過去20年以上に渡るWebサイトでの発信の積み重ねがあったためであろう。

本書の構成は、以下のとおりである。まず、「本書をお使いになる前に」、「はりまの大地はどのようにしてできたか」、「播磨の地質形成史」、そしてはりまの地質を楽しむための見学

コースとして、以下の27コースが記されている。1 比延（ひえ）山，2 黒滝から赤松峠，3 雄岡（おっこ）山・雌岡（めっこ）山，4 屏風ヶ浦，5 高峰神社から愛宕山，6 加西アルプス，7 小野アルプス，8 大藤（おおふじ）山，9 石の宝殿（ほうでん）から竜（たつ）山，10 砥峰（とのみね）高原から夜鷹（よたか）山，11 峰山高原から暁晴（ぎょうせい）山，12 川辺城（かわなべしろ）山，13 日光寺山，14 桶居（おけすけ）山，15 増位山からそうめん滝，16 蛤（はまぐり）岩・蛤山から舟越（ふなこし）山，17 麻生（あさお）山から仁寿（じんじゅ）山，18 千町（せんちょう）岩塊流から段ヶ峰・フトウガ峰，19 一（ひとつ）山，20 ダルガ峰（なる），21 国見山，22 飯野山城跡，23 屏風岩・鶴嘴（つるはし）山，24 宮山，25 ビシャゴ岩，26 赤穂（あこう）御崎（みさき）・唐船（からせん）山，27 家島。さらに、「はりまの石を見分けよう」、「はりまの石 ミニ図鑑」、主な参考文献、おわりに、となっている。

地質を楽しむためには、その地域がどのようにできたのかを大まかに知っておくことが必要である。「はりまの大地はどのようにしてできたか」はそのために書かれており、播磨地域の形成史が、田崎正和氏による親しみやすいイラストとともにまとめている。

「はりまの地質形成史」は、播磨地域の地質形成史を表に示したものである。地質時代と播磨地域の主な地質の模式層序表、主な地史が表になったもので、大変分かりやすく表現されている。この表には主要な地層の露頭写真も挿入されているが、露頭写真はサイズの関係で柱状図の縦軸の正しい位置に収まりきっていないが、それについての説明がない。主な地質の欄には、主要な地層の時代が柱状図的に示されており、露頭写真にはその柱状図と同じ色の枠がついているのであるが、説明がないと一般の人には理解できないと思われる。ぜひ説明を加えてほしい。

播磨全体図として、播磨地域の市町村境界と市町村名の入った図に、27のコースの位置が記入されている。また別のページには播磨地域の地質図（日本シームレス地質図より作図されたもの）が書かれているが、全体図とはページが離れているため、各コースの位置と地質の関係が明確ではない。地質図にコースの位置図も載せた方がよいと思われる。

それぞれのコースを歩いて岩石や地形を観察するための所要時間は2時間から6時間であり、これらのコースごとに、地質や地形の概要が簡潔に示されている。それぞれのコースにはStop1～3の3か所の見学地点が示され、そこで観察される岩石や地質構造が、いずれのコースも4ページの範囲内に記載されている。見学地点3か所ずつでは、地質や岩石に興味を持つマニアにはやや物足りないと思う人もいるかもしれないが、地質学を知らない一般の登山者には必要十分なものであろう。

「はりまの石を見分けよう」は、読者が山で岩石を見分けるときに役立つ情報が書かれて

いる。「はりまの石 ミニ図鑑」は、はりまの岩石試料の写真のほか、露頭写真(2枚)、薄片写真(1枚)の計27枚からなる。写真はいずれも岩石標本の特徴がよく表れたものであり、読者はこれらの写真によって岩石の初歩的な鑑定法を学ぶことができる。欲を言えば、これらの写真をもう少し大きなサイズにして欲しい。また薄片写真が1枚しかないが、できれば代表的な岩石のすべての薄片写真があるとよい。

最後に本書の特徴をまとめると、地質初心者にとって分かりにくそうな情報は徹底的に排除し、できるだけ簡潔に表現することに重点を置いていることである。簡潔さを追求することは重要ではあるが、今後の改訂版や続編においては、簡単なルートマップのほか、層理面や節理面の姿勢などを載せることもぜひ検討してほしい。また地質や地形のほかに、花・樹木・チョウ・トンボ・鳥の声なども取り上げるなど、大地をつくる地質と合わせて総合的にその山域の環境が感じられるように配慮されているのも本書の特徴である。さらに、子供が興味を持ちそうな小石や鉱物の採集を取り上げているが、その際の産地保護への配慮も十分である。播磨地域の地質に興味がある人はもちろん、地元の地質のガイドブックの執筆を計画中の人などにもぜひ読んでいただきたい。

(土谷信高)